

# スターリイマンの 9つの風船便り

2011年  
特別感謝号



親愛なる皆様へ

日毎に空気も冷たくなり、初冬の季節へと移るのを感じる今日この頃。今年もあと一ヶ月余りとなりました。皆様いかがお過ごしでしょうか？さて、三月十一日の東日本大震災から、今日に至るまでの日々は、とても悲しく辛いことがたくさんありました。しかし、だからこそ感じられる、ささやかな幸せや喜び、本当に大切なものに気づくことが出来ました。

そんな二〇一二年、私達の活動も大きく変化いたしました。私達をいつも見守り、支えてくださっている大切な皆様に、心からの感謝の気持ちを含めて、様々な活動が広がっている中、本日は、震災復興を願った「スターリイマン紙芝居プロジェクト」と、「かけがえのない日本の心の原風景」シリーズの活動をまとめた「スターリイマンの九つの風船便り」をお届けいたします。それでは、最後までどうぞよろしくお願い致します☆

はせがわファミリーより



上) ストリートオルガン演奏は皆様に大好評です！  
下) 新作「夢をつなぐ命のきずな」(陸前高田の松)

## 被災地の子ども達に輝く笑顔と夢を贈ろう！ 「スターリイマン紙芝居プロジェクト」 沖縄から始動

私達は現在、被災地の子ども達に、スターリイマンの紙芝居を贈る活動を行っています。(※詳細は、同封手ラシや資料をご参照ください)

七月七日の七夕の日に、被災地復興の祈りを込めて紙芝居を発売。それに合わせて、七月三日から十一日まで、沖縄県内各地で、プロジェクトの応援を呼びかける活動を開催いたしました。自主開催した県立博物館内のギャラリー内での記念原画展覧会だけでなく、東村のカフェでの紙芝居イベント、保育園や幼稚園、小学校への訪問など、沖縄で応援して下さっている方々から、温かい応援と励ましをいただいたスタートでした。

その後、被災地での活動第一弾として、七月三十一日から八月五日まで、岩手県、宮城県、福島県の保育園、幼稚園、仮設住宅、地域のイベントや介護施設などで紙芝居をお贈りしてまいりました。正直、初めは不安な気持ちでいっぱいでしたが、たくさんの子ども達や地域の皆様の輝く笑顔に会うことが出来、喜びと感謝と感動の六日間でした。その後も、九月、十月、十一月と毎月福島県内で、紙芝居を贈る活動を行ってまいりました。

一ヶ所、一ヶ所、ここでは書き切れない程の様々なドラマ、深く心に残る出来事があり、今でも思い出すと感慨深い気持ちが溢れてきます。こうした活動の日々は、私達の想いに共感して下さった方々の、心からの応援があったからこそ過ごせた、本当にかけがえのない大切な時間です。紙芝居の活動を通して、私達は、多くの方々に支えられていることを、改めて強く実感いたしました。

おかげ様で、少しずつ温かいご支援の輪が日本各地に広がっていますが、被災地にはスターリイマンの夢を叶える九つの風船を待っている子ども達も、まだまだたくさんいます。一人でも多くの方々に、このプロジェクトを知って頂き、紙芝居でつながった皆様と、家族のような思いやりの「愛」を分かち合い、被災地の子供たちや、これからの日本の未来を創る子ども達の「夢」を支え合えたら嬉しいですね。さあ！一緒に被災地の子ども達や地域の皆様のスターリイマンになって、「希望」「元氣」「勇氣」「夢」「愛」「友情」「信頼」「未来」「幸せ」の夢を叶える九つの風船を届けましょう☆

【沖縄での紙芝居の活動の様子】



七月に沖縄県糸満小学校の六年生のみならずと授業をして、被災地の方々に心を込めてお手紙を書いてくれました。十月は被災地の報告と新作の朗読も聴いてもらいました。



沖縄県うるま市の伊波保育園さんのおみんなは元気いっぱい！

【被災地での紙芝居の活動の様子】



とっても真剣に紙芝居や原画を観てくれている被災地の保育園の子ども達の姿に感動！紙芝居を楽しんでもらった後は、うたを歌いながら九つの風船を覚えたり、一緒に給食を食べたり、色々なお話をしたり、みんなの笑顔とたくさん出会うことが出来ました！



最後は、「きずな握手」でまた会おうね！「また来てね！」と最幸の笑顔が嬉しくてみんなとぎゅーっと抱きしめあいました。

日本理化学工業株式会社さんとのコラボで窓にお絵描きができる「キットパス」も紙芝居と一緒に子ども達に贈っています！

【今後の予定】十二月十九日から二十五日まで、宮城県気仙沼市、仙台市、石巻市などの、子ども達に、紙芝居と一緒にクリスマスプレゼントをお届けしていきます！また福島県内の子ども達に紙芝居を贈る輪が、地域の皆様の応援でどんどん広がっています！みんなを待っています☆

# 夢を叶える九つ風船に復興の祈りを込めて 「被災地の未来を輝かす心の原風景」 九作品

皆様、こんにちは。はせがわいさおです。私は、二〇〇九年の絵画活動三〇年を機に、「かけがえない日本の心の原風景」をテーマした作品を描いています。自分を支え、育ててくれたふるさとへ感謝の気持ちを込めて、日本の美しい心、美しい心の原風景の輝きが、ずっとずっと未来へ受け継がれてほしいと願いながら…。

そんな中、東日本大震災が起こりました。震災後、悲惨な被災地の現状が次々に報道される中、テレビに映し出された陸前高田の一本の松の木に、私は心を大きく揺り動かされました。あの大津波にも耐え、七万本あった高田松原のうち、たった一本だけ残った松の木の姿は、希望の象徴のように思えました。私は、ただひたすら絵筆を走らせ、イマジネーションで一枚の絵を描きました。それが「夢をつなぐ希望の道」の作品です。

今を生きる一人一人が、スターリマンになって、夢を叶える九つの風船を届けながら、希望の道を一步一步進んだ未来には、きっとたくさんの方々の花たちが咲くことでしょう。明日を信じる事の大切さや、夢が持つ無限の輝きを、この作品から感じていただけたら幸いです。

「夢をつなぐ希望の道」

今を生きる私たちは  
どんな時でも

「希望」「元気」「勇氣」「夢」「愛」  
「友情」「未来」「信頼」「幸せ」の  
夢を叶える九つの風船を持って  
夢をつなぐ希望の道を  
歩いて行こうよ

かけがえない大切な

愛するふるさとのために

未来を輝かす子供たちのために

タイトル・お話 はせがわ芳見



その後、八月一日〜三日に「スターリマン紙芝居プロジェクト」の活動で、陸前高田市を訪れ、実際に松に会う事が出来ました。爪痕残る荒野の海岸で、塩害によって痛々しい姿になりながらも、必死に生きる松。命の叫び声が聞こえてくるようでした。ただ静かに自分の運命を受け止め、海を見つめている松の姿は、私の心を強く打ちました。そしてその感動を新たな作品として、九月に完成させたのが「夢をつなぐ命のきずな」の作品です。こうして生まれた二作品を、震災の影響で延期となった「ゆめふるさと春まつり公演（十月一日に開催）」で発表しました。会場の皆様と共に、今年の春に想いを馳せながら、芳見が創ったお話を、祐希が朗読し、共演者の篠笛奏者のことちゃん、武蔵楽所の皆様の雅楽の演奏も作品と一体となって、何とも言えない温かさに包まれた素晴らしい公演でした。



一本松の作品のお話の朗読が、ことちゃんの篠笛演奏によって、より一層素敵になりました。また最終公演では、「日本の四季の輝き」の春夏秋冬の四作品を一同に舞台上に掲げました。

数え切れない多くの命、先人達の夢が、今を生きる私達の命、夢につながり、また未来にずっと受け継がれていく…そんな尊いきずなの中で、皆様と感動を分かち合えることを、心から幸せに思います。

私はこれから、震災からの復興と愛する日本への想いを絵筆に託し、「スターリマン紙芝居プロジェクト」の活動で訪れた「被災地の未来を輝かす心の原風景」を、夢を叶える九つの風船にのせて九作品描いてまいります。一本松の作品を第一作目とし、来年一月には、二作目となる宮城県気仙沼市の作品を、三月には、三作目として、福島県の作品を描いていく予定です。この作品が完成する毎に、新作の原画と芳見の創作したお話を、祐希の朗読と共に発表する展覧会や公演を、随時開催していきます。そして、九作すべての作品が完成予定となっている、二〇一三年の三月からは、全作品を一同に展示する展覧会と朗読公演を被災地や日本全国で開催していきたいと願っています。そんな未来を夢見て、これから一作品、一作品に心を込めて描いてまいります。

また、この九作品をいつも皆様のすぐそばに飾っていただくことで、いつも被災地の皆様の幸せを想い、復興への一日一日を、輝く未来へつないでいただければと願います。復興祈念版画として、展開していくことにいたしました。（※詳細は、チラシをご覧ください）

震災によって、愛する人やふるさとを失ってしまった方々の計り知れない悲しみ、将来に不安な気持ちを持つて毎日過ごしている、被災地や日本中の皆様に、少しでも未来への希望をお届けしたい。皆様が前に向かって生きる力となるよう、スターリマンの作品を通して、二〇一二年も、夢を叶える風船を届け続けてまいります。引き続き、温かい応援をよろしくお願いいたします！

ここまでお読みいただきまして、  
本当にどうもありがとうございました。  
また皆様にお目にかかれそうですの  
楽しみにしております☆  
二〇一二年が皆様の笑顔溢れる  
素晴らしい一年となりますように…

十一月二十五日

はせがわいさお・芳見・祐希

